

「麺」に熱くなった4日間!

特集 「めんサミット」が生む つながり。



11月初旬、もりおか歴史文化館をメイン会場に行われた「ニッポンめんサミット in 盛岡 2016」。全国の麺好きが集まり、「麺」にまつわる多彩な企画を楽しみました。「麺都もりおか」を再確認した4日間を振り返ります。

公園内で、好みの麺に舌鼓を打つ来場者たち

はじめりは30年前

1986年秋、中ノ橋通の旧中三駐車場をメイン会場に行われた第1回「ニッポンめんサミット」。永六輔氏が議長を務めたシンポジウムにはタレントの小沢昭一氏など著名人も参加、小豆島の手延うどんやラーメン屋台の出店、手打ちそばの実演、カップラーメン早食い競争などの一風変わった企画も開かれました。今ではなじみ深い「〇〇サミット」という食イベントがまだ少ない時代であり、産業まつりとは一味違った印象を残したようです。

そしてこれを発端に、わんこそば・冷麺・じゃじゃ麺は「盛岡三大麺」として全国に知られるように……。中でもイベントで振る舞った「焼肉・冷麺ぴよんぴよん舎」の冷麺が好評を博し、冷麺は「盛岡冷麺」として全国にファンを増やしていくことになりました。

さらに、1996年に行われた第2回「ニッポンめんサミット」では「麺都もりおか」を公式宣言。第1回開催から30年目に当たる今年行われた、第3回「ニッポンめんサミット in 盛岡2016」へと続きます。

盛岡三大麺普及協議会として 麺のまちをアピール

今年の実行委員長を務めたのは「東家の馬場暁彦さん。サミット終了後の余韻が残る11月上旬、第3回開催の

背景を伺いました。

「2年ほど前、『ぴよんぴよん舎』の邊龍雄さんから声をかけられたのがきっかけです。『ぴよんぴよん舎』さんはサミット出店後まもなく店をオープンし、今年30周年を迎えています。節目として『ニッポンめんサミット』への思い入れも強かったのではないのでしょうか。」

第1回開催時に実行委員長を務めたのが東家の先代である馬場勝彦さん。当時交流のあった永六輔さんが発起人となって「ニッポンめんサミット」がはじまったといいますが、詳しい資料は残っていません。盛岡三大麺普及協議会が中心となって実行委員会を立ち上げ、一から動きはじめました。

「第1回を通して盛岡冷麺が広く知られるようになり、第2回以降に盛岡三大麺という捉え方が広がっていった。じゃあ、第3回は何を生むのか。これまで個々に動いてきた三大麺が、一緒に取り組むきっかけになったらいいと思いました。」



今年のサミット開催をきっかけに、盛岡には美味しくて楽しい麺がたくさんあることを強くアピールし続けたいと話す馬場さん

第1回の開催趣旨を踏まえた麵文化の発信、そして純粹に面白いと思える企画を掛け合わせて出来上がったのが、「ニッポンめんサミット in 盛岡2016」です。

4月14日の「じゃじゃの日」には、キックオフイベントとして「じゃじゃ麵を語る会」を開催。6月18日には、肴町アーケードでわんこそばの腕を積み上げる「わんこそばスカイ」というプレイベントを実施。本番に向けて徐々に「ニッポンめんサミット」というフレーズを街なかに刷り込んでいきました。そして、11月3日から6日までの4日間に渡って、メイン会場を含む11会場でイベントが催されたのです。

岩手県グルメ屋台、全国のご当地麵出店、ライブ、冷麵フォーラム、落語会、もえのあずきわんこそばチャレンジ！と多種多様な企画が目白押し。なか、オープニングセレモニーの特別ゲストには女優の『のん』さんも登場。会場には「お帰り！」と岩手全体で大歓迎する空気があふれ、大いに盛り上がりました。

掛け算で伝わる SNSによる情報発信

そんな中、開催初日に東京から駆けつけたのがウェブサイト『ほぼ日刊イトイ新聞』スタッフでした。東京都内の移動、盛岡駅からメイン会場、そして周辺の店舗へ立ち寄った様子をビジュアル目線で随時更新。このおかげで



お昼頃は周辺で働く社員なども増え、ブースは長蛇の列が

行ってみようと思った市外の人も多かったのでは、と馬場さん。

「開催にあたって、テレビや新聞など多くのマスメディアに情報発信していただいたことで、広く周知することができました。加えて、ユーザーレベルで情報発信する現代ではSNSの拡散力が見逃せません。一体どんなイベントか、今、どれだけ美味しそうなのかが並んでいるかの詳細を広めるSNSの発信力は大きく、思いがけず『ほぼ日刊イトイ新聞』を巻きこめたおかげで、イベントをリアルタイムで伝えることができました。」

雨でスタートした初日でしたが、午後から天気が回復。メイン会場となっ

たもりおか歴史文化館周辺は開催期間中、多くの人で賑わいました。同会場だけで4日間のべ4万人弱の入場者をカウント。馬場さんのもとに「屋台の麵を制覇した」と報告してくる人も多く、来場者の「麵好き」を再確認した4日間だったと振り返ります。

麵がむすぶ縁を大切に

出店者の中には自身の地元でのめんサミット開催を望む声もあり、麵をキーワードにした食文化発信の可能性はまだ計り知れません。

「サミット自体を毎年開催するのは難しいですが、三大麵が連携して取り組んだことに価値を感じています。飲食業界も厳しい時代なのでお客様を待つだけではなく、情報発信できるチャンスは有意義に生かすことが大事。今後三大麵として外に仕掛けていくきっかけになりました」と馬場さん。

8月に岩泉で台風被害が発生した際も盛岡三大麵普及協議会として炊き出しに向き、当初国体で振る舞う予定だった「いわいずみ炭鉱ホルモン鍋発掘隊」をイベントに呼ぶことができました。まさに麵を通じてつながった縁こそが今後への財産です。4日間で残したインパクトをどう生かしていくか。一過性のお祭りで終わらせず「盛岡〓麵のまち」を継続的にアピールしたいと、馬場さんは話します。

ところで、入場券として使った「めんバズカード」をまだ活用できることをご存知ですか。カード提示に対し

て長期的なサービスを提供する店舗があるのです(詳細はホームページ参照：<http://www.mensummit.jp>)。麵の大盛りサービス、麵メニュー一品サービスなど、麵好きには見逃せない特典もあるので、ぜひチェックして街なかを歩いてみてはいかがでしょう。「麵都もりおか」の新しい一面を発見できるかもしれません。

